

自第一號（令和元年六月）
至第四號（令和二年三月）

東洋史研究

第七十八卷 總目次

東洋史研究會

論 說

楊炎の「量出以制入」と兩税法の成立再考……………	吳 明浩	一 (一)
「莊騷」の誕生——韓愈における文學としての『莊子』の受容——……………	鈴木 達明	一 (三)
元代江南士人にとつての「中國」——「混一南北」の意味から考える——……………	櫻井 智美	一 (七〇)
福建省興化地域社會と結社、キリスト教、阿片——民國初期の黃濂の亂に着目して——……………	山本 眞	一 (一〇五)
「冀東」の構想——殷汝耕と池宗墨……………	關 智英	一 (一四七)
「遺骸思葬」——『夷堅志』における埋骨の物語……………	鄭 塗	二 (三三)
東周代燕國の東方進出……………	宮本 一夫	二 (六三)
中國古代の夜について——人間の活動と鬼神の出現——……………	矢島明希子	二 (九四)
「周縁」からみた東晉の正統性——前涼における西晉愍帝年號「建興」奉用について——……………	板橋 暁子	二 (三六)
明朝と豊臣政權交渉の一齣——明朝兵部發給「箭付」が語るもの——……………	大野 晃嗣	二 (三五)
世本錐指——『世本』宋忠注をめぐって……………	李 弘喆	三 (四九)
約條と契約——徳川政權の外交とオランダ東インド會社……………	松方 冬子	三 (四四)
一八六〇年代における徳川幕府による琉球の位置附け……………		
——幕府がイギリス政府に提出した「返書」と報告書を中心に……………	ティネツロ・マルコ	三 (四〇)
孫文と張作霖——民國再統一に向けての提携を中心に……………	澁谷 由里	三 (五三)
蔣介石『中國之命運』の國際的反響……………	森川 裕貴	三 (五三)
蘇秦列傳の成立……………	齋籐 賢	四 (五九)

清代徐州における文字獄と禁書再刊——『白香山集』を中心に——	尹 敏志	四	(六四)
秦代における縣の守官任職者について——遷陵縣の官吏異動状況から——	青木 俊介	四	(六六)
「大兵雲集」下の首都防衛について——日清戦争期における督辦軍務處を中心に——	根無新太郎	四	(七〇)

書 評

松島隆眞著『漢帝國の成立』	杉村 伸二	一	(八六)
池田恭哉著『南北朝時代の士大夫と社會』	古橋 紀宏	一	(九七)
上田貴子著『奉天の近代——移民社會における商會・企業・善堂』	塚瀬 進	一	(三三)
永田英正著『漢代史研究』	初山 明	二	(三八)
新居洋子著『イエズス會士と普通の帝國——在華宣教師による文明の翻譯——』	隱岐さや香	三	(五七)
宮 紀子著『モンゴル時代の「知」の東西』	宇野 伸浩	四	(七四)

近 刊 叢 欄

一 (三三)	二 (四〇)	三 (五五)	四 (七九)
--------	--------	--------	--------

大 會 抄 録

中華民國期上海租界における政治引渡しについて	郭 まいか	三	(五九)
一九世紀前半期におけるベトナム北部山地の社會動態と國家統治——阮朝地簿の分析を中心に——	岡田 雅志	三	(五九)
漢代の羌胡内徙と生業轉換——反亂と共生の環境史——	村松 弘一	三	(五〇)

「ワクフのレアヤー」たる遊牧民——オスマン朝における徴稅權の複層化とその影響——	岩本 佳子	三 (五〇)
ホラーサーン系「ハディースの徒」の著述活動		
——一〇〜一三世紀のハディース列擧型論說の盛衰——	森山 央朗	三 (五八)
初代米國駐日總領事ハリスのアジア諸港における外國人居留地人脈		
——珠江デルタ地帯・寧波・上海を中心に——	福岡萬里子	三 (五九)
順天府檔案に見える清代國家の社會支配——青苗會の再檢討——	伍 躍	三 (五六)
中國の隨葬衣物疏とその周邊	淺見直一郎	三 (五三)
陳獨秀における民主主義と社會主義	江田 憲治	三 (五四)